

平成25年度 第3回岩見沢市中心市街地活性化協議会開催結果報告

◆日 時 平成25年9月2日(月) 10:00～11:30

◆場 所 岩見沢商工会議所 第1会議室

◆出席者 出席13団体 欠席7団体 出席者数28名(別紙名簿)

◆協議事項

(1) 平成25年度岩見沢市中心市街地活性化事業補助金審査方法について

(2) 第2期基本計画に登載する事業について

◆報告事項

(1) 空き店舗開設窓口の状況と起業家支援事業

◆議事概要

(1) 平成25年度岩見沢市中心市街地活性化事業補助金審査方法について

[審査スケジュールと審査方法]

① 審査の経緯と流れ

事業者から、中心市街地活性化に寄与する7事業の申請を補助要綱に基づき受付をした。

この7事業について、運営委員会で評価指標の妥当性と書類審査をし、A～Dの判定をした。この審査の際、事業をよりよいものにするため改善案を、附帯条件として、事業者に一度フィードバックし、申請者が協議会の開催までに改善案の回答をしている。本日の事業者からのプレゼンテーションを受けた後、審査基準に基づいて審査をしていただき、その結果を審査表に記入していただき、9月9日までにFAXをいただきたい。

② 審査基準について

審査の内容は、申請書を基に、必要性、有効性、計画性、効率性が評価指標の事業内容が基本方針のどれに該当、あるいは貢献するかを見る。

まず、必要性の審査ポイントとして、3つの代表指標または基本方針に、どの程度貢献する事業かを4～1の項目(点数)によって審査をする。

有効性の審査は、基本計画に対し寄与する度合いとして、施設整備であれば居住者数や従業者数の増加人数、イベント事業であれば集客数、滞在時間、長期間の開催等が有効性と考える。

計画性は、単年度の計画実現性に加えて、5年間継続可能かの確認がポイントとなる。

効率性は、事業収支と事業規模のバランスを確認し、コストや規模の見直し等を審査の視点とする。

以上の4項目の決定した点数を表に当てはめると、自動的にA～Dのランクに判定され、同時に改善案等も現れる。

協議会での審査は、最終補助決定ラインはAとB判定までで、C判定は運営委員会に差し戻すか取り下げをする。D判定は再申請か取り下げとなる。

[7事業のプレゼンテーション]

① 岩見沢市4条通り商店街活性化事業

百餅祭りの事業は今年で31回目の開催となり、4条通りでは、いままでいろいろな企画・イベント、また新規事業を行ってきたが、今年は23回目となる、ちびっ子百餅祭りを中心に事業を行う。これは、毎年7、80の方が抽選漏れとなるほどの応募があるが1回百餅で3回で3百餅を行う。始めたころは10個からで毎年増やしてきて、ここ10年は百餅で経緯している。

百餅祭りは岩見沢の若い力と未来を象徴しているとあるが、ちびっ子百餅祭りをを行う4条通り商店街は、高齢化が進んでいるため、たくさんの事業をやるよりは、ちびっ子百餅祭りに特化したほうが充実するのと、継続性を高めて若い人に継承していき、時代に合った百餅祭りにしていきたい。

次に、年末年始大売出し事業ですが、以前は市商連の取りまとめで全市で行っていたが、大型店の進出によって衰退していった。ただ4条については20年以上の歴史があり、今日に至っては、4条通りだけになっているが、再度全市の取り組みとなることを期待しながら継続している。

内容としては、メインのつかみ取り、スクラッチによるお買い物券の進呈をする。

② 岩見沢子育てサポーターズ「まZ aらぼ」

昨年立ち上げたもので、いろいろな研究をして、お母さんたちに良いものをどんどん提供して喜んでいただこうとして活動していて、今年度も引き続き行う。

昨年と同様に、4本の事業柱として、

・ パスポートの企画運営

会員になると、お母さんに渡す手帳型で、市内の小児科や耳鼻科などの病院や商店を一覧に掲載しており、また市教委のアドバイスで昨年よりグレードアップしている。

・ 子育てセミナー、

育児講座を実施するもので、すでに数回実施している。昨年と違うのは、定期的な講座にすることで滞留を促したり、歩行量を上げたりする目的を持って開催している。また、メニューを決め、講師を配置している。

・ 子育て情報発信

成果目標を設定して、どれぐらいの集客や情報発信ができるのかのあたりで、主にフェイスブックによる子育て情報の発信に重きを置いている。この登録数はすでに目標をクリアしている

・ 子連れイベントの企画・運営

主に、であえーるを中心にしたイベントを行っている。現在は300人を越えている状況で、2年目の今年は伸びていくと考えている。

③ ガーデニング・ロード&低炭素プロジェクト

今年で2年目となる。低炭素プロジェクトは、昨年から市内の高校生ボランティアと一緒に活動している。市のごみと水質汚染の問題に対しては、高校生と一緒に廃食用油を使ってエコキャンドルを製作したり、エコ石鹸を製作し、低炭素社会の実

現に向けて活動している。

ガーデニング・ロードも、今年から高校生と一緒に活動している。低炭素とコラボし、プランターも100%のリサイクル品使用。高校生の女子が多いため軽いものを用意している。また、PRやいたずら防止を兼ねて、係った生徒の名前を入れている。また、土曜ふるさと学校で市内の小中学生に向けてエコキャンドル・エコ石鹸の製作教室を昨年から継続して行っている。

小中高年生と一緒に活動を続けることで、中長期的に市街地の活性化、経済の発展につながる。

○ 北海道の補助とあるが、決まっているのか

⇒ 確定している

④ 岩見沢オペラ普及・定着事業

～前段でオペラとはどういうものかの説明～

岩見沢少年少女合唱団は、活動6年目を迎え、地域に根付いた活動を目指して、市内でいろいろな活動を行ってきた。今回の事業は、今までの経験とふるさと岩見沢のために何かにたちたい気持ちからスタートした。

岩見沢には、いろいろな文化施設があるが、オペラ公演が無かったため、地元出身のプロ歌手を招いた本格的なオペラ公演を計画した。これに子供たちを参加させ、岩見沢の文化の広がり期待している。各公演には、関係者周囲を巻き込んで中心市街地活性化に寄与していきたい。

○ 合唱団には何名いるのか

⇒ 25名の団員がいる。

○ 北海道の補助金は

⇒ 内定している

○ 道内に、このような事業をやっている所はあるのか

⇒ あります

⑤ 岩見沢市民会館・文化センターを拠点とした芸術文化事業および情報発信事業

7事業あるが、性質は3つに分けられ、1としてプロの公演を招聘してのファンの拡大、2としては、市民が自ら参加する事業、3として、これらの情報発信をする事業を予定している。

まなみーるは、中心市街地エリアの端になるが、郊外と街の中を結びつける役でありたいと考えている。他の町の中には駅直結の公共施設を有しているが、外部からお客さんを呼んだときに、駅直結の便利さから、街に寄らずにまっすぐ帰る。

まなみーるは逆転の発想で、まなみーるから街に寄って、それから帰るような仕組みを担って行きたい。歩行者通行量とか市民の回遊とかも期待しながら、中心市街地活性化に寄与したい。

○ 市民プロデュース事業で、入場料が予算に入っていないのはなぜか

⇒ 公募してから、有料か無料を決めていく性質上、予算計上していないが、決定したら、予算・決算の中で報告する。

- 今年から指定管理者になっているが、その事業等の中で今回の事業が盛り込まれているようなことはないか
- ⇒ 自主事業として、何本か市に提示しているが、今回のような具体的な事業は提出していない。
- 今後の取り組みとして、指定管理者は、5年間は予算が確定しているので、新たな事業を取り込むのは難しくなってくるのではないか
- ⇒ 営業努力で利用料収入を上げ、その余剰金で新たな事業を組んで行きたい。

⑥ まちなか居住推進プロジェクト2

所在は、6条西7丁目の3筆を合わせて事業を行います。事業の目的は、記載のとおりです。中心市街地に対する貢献度、目標数値としては、居住者増を18人予定。事業予算は記載のとおり説明

事業の内容について、近年、中心市街地は空き地が多くなってきており、活性化に悪影響を及ぼす懸念があるため、積極的にまちなか居住への事業に取り組んでいる。構造および部屋の説明。昨年の事業の際、非常にニーズが多いことを確認している。補助金が決まるとオール電化やエアコンの設置など、居住環境を高めて入居者に還元して行きたい。

貢献度としては、中心市街地の空き地の解消として効果が高い。中心市街地に居住すると、買い物客の増が見込まれる。また、ごみステーションも鉄製の丈夫なものを設置し、町内会の皆さんにも利用できるようにして行きたい

⑦ 2条西2共同住宅計画

場所は2条西2丁目の2条通りに面する、現在の錦屋クリーニング店の立替になる。この立替の中で、中心市街地居住者の増加と賑わいの増加を考えた、店舗を併せ持つ木造2階建てのアパートの建設により、中心市街地活性化に貢献すると考える。建物の内容及び予算説明。

成果目標として、まちなか居住の促進として、10名。豊かで潤いのある暮らし環境づくりとして、正面出入り口にプランターを設置し、入居者や通行者に潤いを与えるほか、独立したごみ庫の設置など周辺の環境整備も努める。入居する時は町内会への入会を条件とする。会費は、管理費の中で徴収する。除雪協議会には、すでに加入しているが、今後も継続する。

- 施設整備に2つ補助申請があるが、補助率が違うのはなぜか。
- ⇒ 1年以上の空き地に建てる場合は、補助率が上がる。

[運営委員会での事業審査について]

基本的には、目標値の街中住まいを促進する、街中回遊を促進する、街中雇用を促進する、この3つが基本である。中市街地活性化のときは、この3つにどれだけ寄与するかという考え方で審査をした。

審査方法については、必要性、有効性、計画性、効率性を勘案してA、B、C、

Dの判定をした。

・4条通り商店街活性化事業

A判定とした。附帯条件として、中心市街地活性化事業支援補助を受け始めてから、5年を経過した事業は、自立性と拡充性を高めた事業の計画を進めること

・子育てサポーターズ「まz aらば」

B判定とした。附帯条件として、各種団体等との具体的な連携の明示をすること、プレゼンテーション時にフェイスブック・ホームページを提示し、情報の伝達の有効性を説明すること。

・ガーデニング・ロード&低炭素プロジェクト

C判定とした。附帯条件として、予算内容で昨年実績と開きが大きい項目があるので、見直しや、違いの内容の説明をすること、方向性が見えづらい、自立性を求める意味でも今後の展望を記載すること。

・岩見沢オペラ普及・定着事業

C判定とした。附帯条件として、将来性が高まるため事業の計画性を詳しく説明すること。

・岩見沢市民会館・文化センターを拠点とした芸術文化事業および情報発信事業

B判定とした。附帯条件として、他団体との連携を推進し、情報等の拡大を図ること。

・まちなか居住推進プロジェクト2

B判定とした。

・2条西2共同住宅計画

B判定とした。この2つの施設整備事業は、街中居住に貢献度は高い、ただし、今までも施設整備をする際に、町内会への加入、ごみ・雪処理の問題等々地域コミュニティと協力・連携を図ることは附帯条件としている。今回も同じとする。

・特別附記はしていないが、委員の中で、個人資産に対する支援についての慎重性の議論がでた。今後、市とも協議し、施設整備の検討を図っていく。

・先ほどの、施設整備以外のプレゼンテーションで、イベントの説明的なものがあったが、そうではなくて、通行量にどれだけ貢献できるかの観点で審査をした。

(2) 第2期基本計画に登載する事業について

これは、協議会が市に対する提出案として運営委員会でまとめた。協議会で審議願いたい。

経過説明として、平成25年2月25日に市から活性化に寄与する具体的な事業の協議について、として協議会が要請を受け、3月27日の第5回協議会において、運営委員会で検討するよう指示があり、運営委員会では専門部会を設置して検討した。

専門部会は、木村副運営委員を部会長にして、若手21名を中心に5回の検討をした。この内容を運営委員会に諮り、案として協議会に提出した。

内容の説明として、表紙の案は、協議会から市長宛に提出するもので、そこに、具体的な事業に限定した議論であったが、この議論の過程で、まちづくりの基本的な意見も多く提案されたことから、第2期基本計画策定に当たっては、市民や団体を含めた協議の場を

設定して頂く旨を付記した。内容については、7分類で整理をした。

運営委員会の意見として、具体的な事業について、過去からも提案をしている。しかし、なかなか実現はされていない。行政側としても真摯に受け止めて頂きたい。今の基本計画のエリアは広く、なかなか目に見える形となっていない。商業集積地区を決め、事業を推進しているのであれば、その地区を優先的に整備することも。補助事業ありきの5年事業では困るので中心市街地の将来的な展望を持って事業推進をお願いしたい。このような意見があった。

協議会として、第2期基本計画に反映して頂きたく、このまま市に提出する。

報告事項

(1) 空き店舗開設窓口の状況と起業家支援事業

報告1の資料に沿って状況を報告

閉会